

LL-DR1 <Dr.Leak 蛍光剤潤滑油入り漏れ止め剤>

LL-DR200 <Dr.Leak 蛍光剤潤滑油入り漏れ止め剤ミニキット2>



ウェブサイトにて使用動画を掲載しております。
←こちらのQRコードを読み取り、アクセスしてください。
URL : <http://leaklab-japan.jp/dr-leak>

Dye-charge に入っているトレーサーラインの蛍光剤は、R-134a/PAG A/C システムにおける、リーク検知用の UV 蛍光染料として、安定性・互換性ととも、SAE(Society of Automotive Engineers)規格 J2297 に適合、またはそれ以上の品質を有しておりますので、安全にご使用いただけます。
またすべての作業中において、紫外線から目を守る保護メガネ(TP-9940)を着用してください。



ご使用前に、商品に記載の「取扱説明」を必ずご一読ください。
下記、使用上のご注意も合わせてご確認ください。

Dr.Leak の箱に記載しています「取扱説明」を守らずにご使用された場合、缶から冷媒ガスと原液が噴出する危険があります。万が一噴出させてしまった場合、目に入ることもあり大変危険です。また衣服や周辺の車両に飛散させることにもなり、ご使用には十分な注意と知識が必要です。再度、こちらの◆ご使用上の注意◆を確認ください。

◆ご使用上の注意◆

①充填時

缶を切る直前に必ず缶を振り、缶を振りながら逆さまの状態ですべてを充填してください。残量があれば、ガス噴出の恐れがあります。缶をよく振り、全量注入できたことを確認してから、ホースを取り外してください。

②廃棄時

Dr.Leak の缶を廃棄する際、残量があれば、ガス噴出の恐れがありますので、缶をゴミ箱など安全な方に向けて、中身が無いのを確認してから廃棄してください。

③ゲージマニホールドでの充填

Dr.Leak をゲージマニホールドで注入するのはおすすめしません。使用をご希望の場合は、Dr.Leak をよく振って、逆さまにし、すぐに缶を開け、振りながら充填させてください。その後、ホース内に残留している成分を充填させるため、134a サービス缶をつなぎ、そのガスで流し込んでください。(※そうしなければ、十分の漏れ止め成分が車に入らないうちに、漏れが止まらない恐れがあります。) 安全に注入するために、推奨の透明ホース (TP-3827) をご使用ください。ホースが透明で、全量入ったことが確認できます。

④134a、PAG 専用です。

電動コンプレッサを搭載したハイブリッド車 (HV) と電気自動車 (EV) には使用できません。

⑤過充填にご注意

Dr.Leak の内容物成分合計で 60 g あります。軽自動車など小さい車、漏れていない車に注入するときは過充填にご注意ください。冷媒能力低下の原因になるおそれがあります。

以上の注意事項・取扱説明をよくご理解の上、ご使用ください。なお、Dr.Leak はプロユースでエアコンサイクルの基本を理解した方が作業してください。

☆ご参考 : Dr.LEAK の中身について

充填時、缶を逆さにして、よく振ることによって、漏れ止め剤成分とガスが混ざり、ガス圧で上手く充填されます。反対に、使用後残存があれば噴出の恐れがありますので、ご理解の上、十分にご注意ください。

■注入方法 ※推奨注入ホース TP-3827 の場合 (基本的には通常の高スチャージと同じです)

まずは、エンジンをかけ、エアコンを最低温・風量最大に稼働させ、下記の順に従って、ご使用ください。

専用ホースの場合

- ①注入ホースの缶切りバルブを反時計回りに回し、缶切りバルブの針を上まであげてください。
- ②缶切りバルブに Dr. Leak 缶をセットし、缶切りバルブのリング部分を缶に密着するように、締めてください。
- ③車両のエアコン低圧側 (L) サービスポートに注入ホースのクイックカプラをセットし、缶切りバルブとホースの接続口を冷媒ガスが徐々に開放しながら、ホース内のエア抜きをし、確実に締めなおしてください。
- ④缶切りバルブを時計回りに廻し、Dr. Leak を逆さまにし、よく振ってからすぐに缶切りバルブを全開にしてください。2分間程度、Dr. Leak を逆さまにしたまま、エアコン圧力で透明ホースなどに残留した漏れ止め剤を吸い込むようにしてください。
- ⑤全量注入できたら、飛散を防ぐために、ウェスでカバーしながらクイックカプラを外してください。もし飛散した場合はパーツクリーナーなどで素早く洗浄しふき取ってください。

5. 接続口を冷媒ガスが少しだけ出るまで徐々に廻し、ホース内のエア抜きをしてください。エア抜き後、確実に締めてください。
6. 缶切りバルブの針を抜くため、徐々に缶からガスが出るまでバルブを時計回りに廻してください。
7. ダイ・チャージ蛍光剤を逆さまにし、バルブを全開にしてください。ガス圧でオイルを押し込み、数秒で注入が完了します。
8. ガスが空になったら、低圧側のカプラを外してください。

※カプラを低圧ポートからはずすとき、注入した蛍光剤の吹き出しを防ぐため、ウェスなどでカバーしてはずしてください。もし飛び散ったときは市販のパーツクリーナーなどですばやく除去してください。)

■注意事項 この説明書の用途以外の使用はしないでください。

- ・破裂する恐れがありますので、直射日光のあたる場所や 40℃以上の場所に置かないでください。
- ・引火性がありますので、火気に近づけないでください。
- ・決して服用しないでください。万が一飲み込んだ場合、直ちに吐かせ医師の診断を受けてください。
- ・作業中、誤ってエアコンシステム内の液が皮膚や顔などについた場合、直ちに水で十分洗浄し、異常がある場合は医師の診察を受けてください。
- ・子どもの手の届かない場所に保管してください。
- ・保護メガネ(ゴーグル)を必ず着用してください。
- ・廃棄の際は中身を使い切ってから、火の気のない戸外でガスを完全に抜いてから捨ててください。

■リーク箇所検知方法

1. 蛍光剤を循環させるため、少なくとも 10~30 分間エアコンを作動させます。
 2. エンジンを切って、リークの可能性がある箇所をトレーサーラインの紫外線ランプを照射して、あざやかな黄緑色に発光するリーク箇所を発見してください。このとき必ずゴーグル(TP-9940)をかけてください。
 3. 大きなリーク箇所はすぐに発見できますが、スローリークの場合は、24~48 時間作動させた後、検知作業を行ってください。
 4. リーク箇所を修理した後は、トレーサーラインの GLO-AWAY クリーナーか、市販のクリーナーで蛍光剤を除去してください。蛍光剤が残っていると、次回検査の時に誤検知につながります。
 5. なお蛍光剤注入後、コンプレッサーオイルを交換する必要はありません。トレーサーラインの蛍光剤は、オイルを交換しない限り、システム内を安全に循環しています。
- 同封の注入済みラベルに必要事項を記入後、ボンネット内に貼ってください。その車で再度リークが発生した場合は、紫外線ランプを照射するだけでリーク検知が可能です。

■品番表

① Dr.Leak 蛍光剤潤滑油入り漏れ止め剤ミニキット2 <LL-DR1×3本・TP-3827 ホースセット×1式>

セット	単品	内容
LL-DR200	LL-DR1	Dr.Leak 蛍光剤潤滑油入り漏れ止め剤 (10本入り)
	TP-3827	Dr.Leak 用ホースセット (TP-3828 ホース+TP-3830 缶切りバルブ)

③単品品番

単品	内容
LL-DR1	Dr.Leak 蛍光剤潤滑油入り漏れ止め剤 (10本入り)
TP-3827	Dr.Leak 用ホースセット (TP-3828 ホース+TP-3830 缶切りバルブ)
TP-3828	Dr.Leak 用注入ホース 虫押しバルブ付き (カップ側径 1/4, 缶切り側径 M10)
TP-3829	エアパージ (TP-3828 ホース用) (径 M10 径 M10)
TP-3830	R134a 缶切りバルブ (径 M10)

お問い合わせは…
Tel・Fax で

総発売元：



株式会社リークラボ・ジャパン

〒552-0002 大阪市港区市岡元町3丁目3番21号
TEL.06-6582-5497 FAX.06-6582-5495
<https://www.leaklab-japan.com>